

しよたんは"ちゃんを
鍛刀した本歌士ん



細本丸

主！

今鎧刀で顕現した
偽物くんが何故か
小さいんだが？

えっうそ!?
もしかしてバグ!?

そうかもしれない……
ほら僕も……重広……
お前の主になるんだ
隠移しなよ

……失礼だぞ

かわいい……

いっ
いっ
いっ

あ……

えと……

山崎切……重広だ……

その……んを奪うなんて
いらな

いらなくないよッ!!

いっ……あ……いっ……

お前が……
お前が……
お前が……

お前が……
お前が……
お前が……

シャボンちゃんを鍛えた本歌さん



ざっと見てみたところ本れ自体の
影響はないみたい

ただがん国はくんで
るんだと思う

知らないのを

能力の定着が
あまり良くない
みたいだからすぐ
には難しいかな

え

そうか

お前は機の写真で
もつとシヤキツと
していろ

そうだよ国正
あとあまりそんな
ことを言われるのは
気分が悪いかな

おれはり！
だからか

ああ違うよ！
これに本歌も
写しも関係ない
から！

う、写しは
偽物なんかじゃ
ないぞ！！

おっと

それでま
先に撮る方法は
あるのかな？

機の本れでは
機を上げれば
機も上がって
みるのだから
なるほど

それで山姥切さん
急で申し訳ないの
だけど国広くん
のこと面影見てあげて
くれないかな？

一人にするには
心許無いし、
本歌である
君が見てる方が
いいかなって……

ああそれなら
俺から申し入れ
しようと思っ
いたところだよ

そうなの？

もし何かあったら
すぐに言っ
てね！
私に出来ることなら
何でもするから！

こいつで
最後か！

国広！
しつかりしろ

国広！





まだおまかせ
直感も、能力も、
確の裏のほうから
影響じやないのか

よし
いい子だね

口を開けて

「ならもっと
与えてやろう」



これでお前を
失わずに済むのなら

んん〜

ぐわんぐわん



俺がお前を
守つてやろう

だから

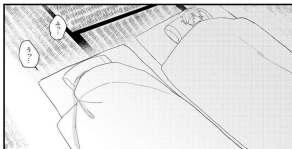
もう大丈夫だよ
国広

もうじき
帰れるから

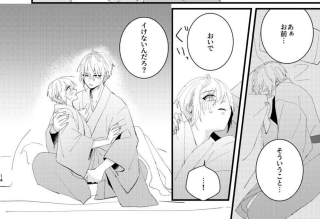






























あ、いたいた！

山崎切さん
ちよつとこれ
見てほしいん
だけど



今時間
大丈夫……

あら？

あらあ！



あともう少しで
山崎切さんと
同じくらいに
なあんじやない？

あら、そうだね

ところで
見てほしい物
とは何かな？

そうせう
このなんだけど

……



園広くん随分
大きくなったねえ！
この體まであんなに
小さかったのに！

言い方が道所の
おばさんみたい
だよ、ま







嫌だ

そんな体で
修行に行ける
はずないだろ

……

こんな形で

い……やだ……

嫌だ
こんな形は……



!?

欲しくない……



嫌ッ

嫌だ！

クッ...

煩いな

本歌！

本ッ...











こんなの……

こんな……



うう……

やめて……



うう……
くす……

ほんか……



おねがい……



チュッ

クソッ

っ!?

やあっ
あっ

いああっ

本歌っ

あっ

ほんかあっ

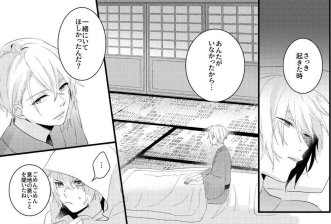


その人
も主の刀なんだ

いつかその日が来るとて

わがでいていたじゃないか

本歌





まだ眠っている
だろうか……

というか
そもそも

俺といたく
なかつたから部屋に
ないのか……!?



い……

いたたまれない……



俺から面を
隠けたのに

こんな時で
隠せばいいの
わかんない……



ハッキリ

国広



きつとそうだ……

よくよく考えれば
写しが車歌より
先に修行に行く
なんて最前がまし
かつたんだ……

やっぱり
部屋に……



お前に無理を
強いた

大人気無くて
自分の不甲斐無さに
心落ちれるよ……



きつきは……
済まなかつた

……





あんたのせい
じゃない……

ただ俺の気持ちも
逃ってただけで……

修行に行けば
本歌と並べる
ようになれるんじや
ないか？

確かにあんたの言う通り
俺の身体はこんなだ

バグだつて悪いか
わからない……

それでも、神度
合わせてちゃんと成長
してきているんだ

このまま神度が
上段に達すれば
出来るかもしれない

だから……

あはは！

!?

わ……
笑われた……！

そうか
なるほどね

そうきたか

？

お前の神度が
上段に達したら
修行に行くのを
認めろと

だろ？

い、誰なら
別に……

いいって？
そんな顔には
全く見えない
けど？

見るな！

あはは

ただし
一つ条件がある

む

ふいっ

お前も随分と
お嬢様の上臈に
なつたものだね

わい
わかった

えっ

お前の純度が
上臈に達した
その日は

お前の全部を

俺に
ちようだい？







山姥切国広

参る！





まだだ

まだ足りない



もっと

俺は

もっとー！



強くなる



そして

今度は俺が

本歌を…

は、

国広



本当に
いいのかな？



ああ





あんたのものだ

髪も

指も

この身も

全部



あんたのものだ























主、
失礼する

どうぞー

あら
園広くん

スィー

珍しいね
一人で
来るなんて

ってあれ？

どうしたの？

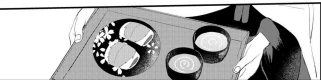
今日は休番
だったよね
どこか行くの？

主、
顧みがある

何かな？

鑑を

修行に行かせて
くれないか









…俺もだよ



でも、俺は

もっと強く
なりたい…かな

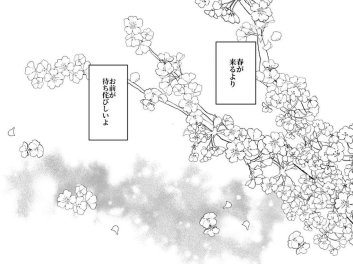


…ふふ



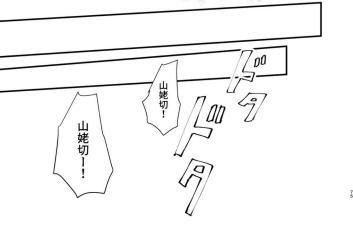
国あ
広あ

そうね



春が
来るより

お前が
待ち侘びしいよ



山姥切—

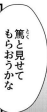
山姥切—

下
下
下













ひょいっ

さてと、では
皆への挨拶回りは
また後日として

お前との
手合わせも
その後だ

わっ

や、やめろ本歌！
降ろしてくれ！

だめだ
お前また
倒れるだろう？

倒れない！

なんだか
親子みたいね

そんな綺麗な
ものじゃないよ







あとがき

この本を手にとってくださいありがとうございます！
これを描き始めた当初は「内容もないただのエロが描きたい！」
という感情だけで描いていたのですが、まさかこんなに
ページが伸びるとは思いませんでした。びっくりです…

そして今回でちぎくに本は(新本を除いて)3冊目となりました！
元々バチバチのハビエンを迎えさせる予定ではあったのですが、
無事に迎えることが出来て本当にほっとしています。
ただただ幸せな種しが見たい人生です…(倉肇)

またこちらのおまけ話(というか後日談)を本の形にして
出す予定でございます。
そちらでは長義君が監査官スタイルしてくれたり、
二人がイチャコラしながらある約束をしたりするお話となっております。
また次回お会い出来たらうれしいです！

ここまで読んでくださり、ありがとうございました！



